[山梨県] 南アルプス市立小中一貫校八田小中学校（併設型）

南アルプス市立八田小学校
南アルプス市立八田中学校

1．学校（区）概要

- 教育目標：ふるさとの未来（あす）を創造する児童生徒の育成
  ～知・徳・体の調和のとれた児童生徒の育成を目指して～
- 所在地　：（八田小）山梨県南アルプス市野牛島２２２２
  （八田中）山梨県南アルプス市榎原６２０
- 施設形態：施設分離型
- 児童生徒数（R3.5.1時点）

八田小　八田中

	小学校								中学校					小・中計
学年	1	2	3	4	5	6	特支	計	1	2	3	特支	計	
児童生徒数	51	51	40	59	53	46	14	314	55	48	60	8	171	485
学級数	3	2	2	2	2	2	3	16	2	2	2	2	8	24

2．導入経緯

【検討開始のきっかけ】
南アルプス市では、小学校から中学校への円滑な接続や学力向上、いじめ・不登校など小中学校が抱える課題を解消するために、平成28年に小中一貫教育調査研究会を立ち上げ、小中一貫教育の検討を始めた。
【具体的な経緯】
・平成２９年度　南アルプス市小中一貫教育検討委員会を設置し、提言をまとめる。
・平成３０年度　八田・芦安地区小中一貫教育推進協議会設置　　南アルプス市小中一貫教育推進基本方針作成
・平成３１年(令和元年)度　南アルプス市立小中一貫校八田小中学校開校

3．小中一貫教育の取組概要

ねらい

- 義務教育９年間での「途切れのない連続させた教育」の充実を図り、学校・家庭・地域が協働して、「ふるさとを大切に思う児童生徒」、「変化の激しい、先行き不透明な社会に適応できる主体性のある児童生徒」、「自律性・豊かな人間性を持ち、たくましく生きていくための健康・体力を持った児童生徒」の育成を目指す。

施設活用

- 施設分離型　小中学校間距離：１km（徒歩15分）

教職員体制

- 校長：小中それぞれに配置
- 教職員：一部の教員に兼務発令

教育課程特例・区切り・区切りを意識させる学校行事等

- 教育課程の特例：実施なし
- 区切り：６－３
- 学校行事等：実施なし

教科担任制・教員の相互乗り入れ

- 教科担任制：一部教科担任制（第４学年　理科、第５学年から外国語、理科）
- 教員の相互乗り入れ：中学校教員が小学校の体育、音楽、外国語活動に乗り入れ

児童生徒の異学年交流の工夫

- 中学校部活動部員による催し物参加、技術指導
- 中学校３年生と小学校の合唱交流会、小学校６年生の中学校合唱コンクール鑑賞
- 児童会・生徒会活動

市町村教育委員会等による支援

- 南アルプス市小中一貫教育推進協議会

その他

- 小中合同校内研究会、小中一貫教育研究会(令和３年度より)
- 小中合同学校関係者評価委員会、小中合同学校保健委員会
- 保育所、小学校、中学校合同引き渡し訓練

テーマ：安心した学校生活を支える９年間を見通した取組

キーワード　～つなぐ～

小中一貫校八田小中学校は、【八田 Children first】をコンセプトに『１学習をつなぐ　２児童生徒をつなぐ　３教職員をつなぐ　４学校・家庭・地域をつなぐ』の４つの『つなぐプロジェクト』を柱とし、義務教育９年間が「途切れのない連続させた教育」となるよう取り組んでいる。中でも、『学習をつなぐ』においては、児童生徒が学校生活の中心である授業に安心して取り組むことができるよう、小中一貫教育の中核として位置付けている。

また、学習指導のみならず、小中学校の垣根を超えて抱えている課題を共有し合い、その解決に向けて共に知恵を出し合うために『４つの分科会』を構成し、児童生徒の健全育成を図ることを目指している。

『４つの分科会』

※CSはコミュニティースクールを表す。

１）　学習指導部（学習をつなぐ）
- ９年間を見通した教育課程の編成
- 小中学校共通学力向上対策（家庭学習等）
- 教科乗り入れ授業の実施　　等

２）児童生徒交流部（児童生徒をつなぐ）
- 中学校部活動部員による技術指導
- 中学校行事への参観、見学および参加
- 小中いじめ０宣言　　等

３）児童生徒支援部（教職員をつなぐ）
- 児童生徒理解に関する情報交換
- 特別支援教育の推進
- 小中管理職による連絡調整　　等

４）ＣＳ構想部（学校・家庭・地域をつなぐ）
- 八田地区の「ひと・もの・こと」を活かした学び
- 八田地区「教育を語る会」の開催
- 地域行事への参加　　等

【学習をつなぐ】

①八田小中スタンダードおよび年間指導計画（簡略版）の作成
学習指導上、小学校低学年、中学年、高学年、中学校１年生、中学校２・３年生の５つの発達段階に分け、各教科・領域における目指す児童生徒像と習得内容について共通理解を図っている。

②学習スタイルの確立
学習スキル、プロセス、ルールなど、小中学校で授業スタイルを統一して授業を進めている。

③英語専科教員の配置および教科乗り入れ授業の実施
外国語、体育、音楽では中学校教師を含めたティームティーチングにより、専門性を活かした指導が可能である。

令和３年度の全国学力・学習状況調査（小学校）では、「英語が好き」は85%、「英語で自分の考えや気持ちを伝えあうことができている」は90%の児童が肯定的な回答をしている。

八田小・中スタンダード　各教科におけるめざす・児童生徒像
習得内容についての共通理解

		国　語	社　会
小学校高学年	教科におけるめざす児童・生徒像	○討論や話し合い活動において、相手の意図をとらえながら聞いたり、自分の立場や意図をはっきりさせながら話したりする児童	○複数の資料から必要な情報を読み取り、それを根拠として考えたことを表現したり、話し合ったりする児童
	習得内容についての共通理解	○これまでに学習した基本話型、言葉遣いなどを繰り返し確認しながら、話したり聞いたりする。	○地理、歴史、公民に関する社会的事象について意見をもち，討論などを通して考える。
中学校１年生	教科におけるめざす児童・生徒像	○スピーチや討論の中で、話し合いの話題や方向性をとらえて相手の考えを聞いたり、自分の考えをまとめながら的確に話すことができる生徒	○資料を有効に活用して説明したり，自分の解釈を加えて論述したり，意見交換をしたりして，根拠をもとに考察・判断した結果を自分の言葉で表現できる生徒
	習得内容についての共通理解	○掲示物を活用した型をもとにして、状況に応じた自分なりの話し方を身につける。	○地理・歴史ともに，基本的な用語や地名などを習得し，新聞などの資料を活用して発表したり話し合ったりする。

【児童生徒をつなぐ】

中学校の生徒会活動で柱になっている部活動や合唱活動に慣れ親しむために、次の取組を進めている。

①小学校陸上記録会に向けて中学校陸上部員による技術指導、小学校学校行事における中学校吹奏楽部の演奏

②中学３年生との合唱交流会、中学校の合唱コンクールを小学校６年生が鑑賞

これらの取組は、小学生のスムーズな中学校生活への移行だけでなく、中学生の先輩としての自覚を高め、より良い合唱を創ろうとする意欲を育む活動にもつながっている。

【学校・家庭・地域をつなぐ】

①八田地区教育を語る会を実施し、保護者、地域の方を交えて、地域の教育について話し合う。

②保育所、小学校、中学校合同の引き渡し訓練を実施している。

【教職員をつなぐ】

①小中合同校内研究会、小中一貫教育研究会を通して、児童生徒の良さや課題を共有し、授業や生徒指導に活かす。

②支援を必要とする児童生徒については、情報交換を密に行い、途切れのない支援ができるようにする。

これまでの成果と課題、今後の取組

学習スタイルの確立によって、特にグループワークを授業内に仕組みやすくなった。また、参加姿勢にも違和感を覚えず、スムーズな運営ができている。さらには、中学校教師による乗り入れ授業を実施していることも含め、児童の中学校進学への不安（小中ギャップ）の解消につながっている。

一方、小中学校が離れているため、児童生徒のみならず教員においても日常的な交流を行うことが難しく、保護者や地域にその成果が分かりづらいことが課題として挙げられる。

今後は、コミュニティースクールへの移行も視野に入れ、地域に根差した一貫教育の推進を目指す。